

令和4年度 学校評価 最終評価

川北町立橋小学校

	評価項目と具体的取組	担当	評価指標	達成度判断基準	備考	評価	取り組み状況	改善に向けて
I 組織的な学校運営	【学校教育ビジョンの具現化】 学校運営委員会や校務委員会と職員会議を密接に連携させ、学校教育ビジョンのもと、チーム学校を常に意識し、組織的主体的に学校運営に参画する。	総務部	【満足度指標】 学校教育ビジョンを意識しながら、それを実現すべく組織的主体的に学校運営に参画している	組織的主体的に学校運営に参画していると回答する職員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月12月 教員アンケート	A	とても当てはまる70%、当てはまる30%。 各主任を中心に学校教育ビジョンの達成に向けて具体的な方策や取組を提案し実践した。それぞれの取組等が、児童の学びや成長につながっていた。	学校全体で取り組んでいるという意識を高めるためにも、各行事や取組等の時期を工夫し、より効果的になるようにする。来年度のカリキュラムマネジメントにいかしていく。
	【働き方改革】 業務の役割分担の適正化と組織的協働的な学校運営に努め、ワークライフバランスを大切にしている。	総務部	【満足度指標】 職員は「ワークライフバランス」の大切にし、充実感を持って職務の遂行に努めている。	ワークライフバランスを大切にしている。充実感を持って教育に当たっていると回答する職員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月12月 教員アンケート	A	全職員がワークライフバランスを意識し、充実感を持って教育にあたっているという結果だった。学期中は、どうしても超過勤務が45時間超えになってしまう職員もいたが、長期休業時には必要な業務や研修を遂行しながら、できる範囲で休暇をとるよう心がけていた。	小規模校で、一人の職員に係る仕事量の負担は大きい。低中高部会、校務委員会、運営委員会等を機能させ、チームで協力することで一人の負担を減らす。
II 確かな学力の育成	【学力向上】 基礎学力向上計画・学力向上プランの共通実践や児童に達成感を持たせられるようにするための授業改善に努め、基礎的基本的学力の向上を図る。	教務部	【成果指標】 取組の結果、基礎学力が向上している。	ばっちり算数の合格者の割合が75%以上であった学年が A 全学年 B 5つの学年 C 4つの学年 D 3つの学年以下	7月12月2月 ばっちり算数の合格者の割合	A	ばっちり算数の合格者の割合が75%以上であった学年が全学年だった。合格者が100%の学年もあり、算数の基礎学力の向上が見られた。全学年目標を達成することができたが、学年による差も見られた。	合格できなかった児童については、個別指導するなどして、落ち込みをなくすようにしていく。落ち込みが見られた単元について、学びなおしをしたりプリント学習をしたりして、次年度につないでいく。また、学習内容を定着させるための授業改善をさらに進めていく。
	【自ら学び、考え、ともに高め合う子の育成】 児童が課題意識を持ち、主体的・対話的に学ぶ学習活動を推進し、「わかった・できた」という達成感のある授業につながる指導力の向上を図る。	教育推進部	【満足度指標】 子供が「わかった・できた」という達成感のある授業づくりを通して指導力が向上したと感じている。	学校研究の取り組みを通して指導力が向上したと感じる教員の割合が A 100% B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満	7月12月 教員アンケート	A	子供が「わかった・できた」という達成感のある授業づくりを行うために、学習課題作成シートを活用した授業づくりを進めた。また、教員間で授業を参観し合う授業交流週間を設けた。これらの取り組みの結果、「学校研究の取り組みを通して指導力が向上したと感じる」という項目に対して そう思う・・・60%、だいたいそう思う・・・40%であり、指導力が向上したと感じている教員の割合が100%であった。	更なる指導力の向上につなげるために、今後は教員同士で授業についてアドバイスし合ったり、学校教育アドバイザーと相談したりして教材研究を深めていくことができるよう取り組みを進めていく。
	【読書の量の向上】 図書館司書と連携し、毎月おすすめの本の達成状況を知らせ、振り返ることで、主体的な読書活動に向けたしかけの工夫を図る。	教務部 (図書担当)	【成果指標】 学年のおすすめの本を読むことが出来ている。 (1・2年20冊、3年15冊、4～6年10冊)	学年の「おすすめの本」を読み終えた児童の割合が A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満	おすすめの本の冊数 7月(2年7冊、1・3年5冊、4～6年4冊) 12月(1・2年14冊、3年10冊、4～6年7冊) 2月(1・2年20冊、3年15冊、4～6年10冊)	B	おすすめの本、2学期のめあて達成状況は全校児童139人中130人で達成率は93.5%。 図書館司書による読書環境作り、教職員の働きかけの効果もあり、児童は進んで読書をしている。しかし、読むことに抵抗がある児童が、読書意欲を高められず、おすすめの本の達成状況や、図書館利用の状況がよくない。	引き続き担任によるしかけをしていく。また、図書委員による楽しい企画も準備して多くの児童が読書意欲を高めるように働きかけたり、自分で本を読むことに抵抗がある児童には、担任による読み聞かせをしたりするなどして、おすすめの本の達成率100%を目指す。また、図書館司書との連携も行い、図書館利用も増やしていく。
III 豊かな人間性の育成	【みんなが安心できる楽しい学校づくり】 学校が安心でき、楽しいと感じられるよう、生徒指導の3機能を意識した授業や行事で、児童を認め価値付ける。	生徒指導部	【満足度指標】 児童が、楽しく学校生活を送っている。	「学校は楽しい」と回答した児童が、 A 90%以上 (あてはまるくどちらかというとはまるの場合はB) B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月12月 児童アンケート	A	肯定的評価に回答した児童の割合が92%であった。 楽しく学校生活が送れるように、生徒指導の3機能を軸とした授業づくりに努めた。また、行事ではめあてを意識させ、そのめあてを達成できるようしかけに努めた。	生徒指導の3機能の中でも、特に授業の中で考えを認めることを大切にすることで、学級での人間関係や居場所作りにつながっていった。今後、学校研究ともタイアップして、具体的な教師の声かけや働きかけを提示していく。また、行事では児童を積極的に認め、価値付けることで、楽しさや達成感を感じさせることにつながったと考える。今後も楽しいと思える授業や行事になるように、児童を認め価値付けていく。
	【道徳教育の充実】 道徳の時間を要として、構造的な板書や発問、ふり返りの工夫をし、道徳教育の充実を図る。	保健安全・体育部 (道徳教育推進)	【満足度指標】 自分の思いや考えをもち、友達と議論しながら考えを深めている。	「自分の思いや考えをもち、友達と話し合うことができた」と感じている児童の割合が、 A 90%以上 (いつもしたく時々の場合はB) B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月12月 道徳アンケート	B	88.7% 「学びの足跡」や生活目標に合わせた図書を図書館前に掲示をすることで、どんなときでも道徳での学びを振り返ることができるとの掲示を行った。	低学年での割合が低い結果となったため、発問の工夫や思考ツール、GIGAを活用すること等を通して、自分の思いや考えを伝えたいようになるようなしかけづくりに努める。友だちと話ができるような学びの形態の工夫やタイムマネジメントも大切に、特に重点項目の教材では、自分の思いをもち、友だちの考えから広がりや深まりがあるような授業づくりに努める。
	【児童の自主性・主体性の育成】 よりよい学校・学級づくりに、児童会や委員会、学級活動、学校行事等に自主性・主体性をもって取り組める児童の育成に努める。	生徒指導部	【満足度指標】 児童会、委員会、学級活動等において、児童はよりよい学校・学級づくりに進んで取り組めたと感じている。	よりよい校風づくりのために進んで取り組めたと感じている児童の割合が、 A 90%以上 (但しあてはまるくどちらかというとはまるの場合はB) B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月12月 児童アンケート	A	肯定的評価に回答した児童の割合が92%であった。 前期と比べ、とてもあてはまると回答した児童の割合が増えた。 児童が主体となりめあてを考え、児童の思いを大切にしながら見守ったり、アドバイスを送ったりすることを共通理解した。運動会や橋まつり、はげまし活動では、上級生が下級生の行動のお手本となり、進んで行事に参加していた。	引き続き、児童が主体的に取り組めるように、児童の思いが実現できる見通しや助言に努めていく。また、全校で学校を創り上げるという実感ができるように、代表委員会や下級生からも提案を積極的に取り入れたり、下級生の参画意識を持たせたりしていく。
IV 健全な体の育成	【体力の向上】 体育の授業や児童の活動を主とした「体力作り1校1プラン」、「スポチャレ」の取組を通して体力の向上を図る。	保健安全・体育部	【成果指標】 11月のミニ体力テストにおいて、立ち幅跳びの記録が、次の学年のR3年度県平均を上回る。	11月のミニ体力テストにおいて、立ち幅跳びの記録が、次の学年のR3年度県平均を上回る児童(4～6年生) A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満	11月 ミニ体力テスト	A	11月のミニ体力テストの結果において、全体の7割の児童が、次の学年のR3年度県平均を上回った。5月の体力テストの結果で、R3年度県平均を下回っていた6年男子、4年女子、6年女子も、平均を上回る結果となった。	引き続き、授業の準備運動や体づくり運動、陸上運動などにおいても、踏み込む際の力強さを向上させたり、タイミングの取り方を身につけさせたりする指導を行う。また、行事や児童会活動を通して、さらに体力の向上に努める。
	【心身の健康】 心身ともに健康で元気に学校生活を送るために、スクールカウンセラー等の外部機関とも連携して、児童の自己肯定感を高める取り組みの充実を図る。	保健安全・体育部	【満足度指標】 心の健康に関する授業とたわわり活動を通して、自他の良さに気づき、心身ともに健康で、元気に学校生活を送っている。	「自分にはよいところがある」と感じている児童の割合が、 A 90%以上 (あてはまるくどちらかの場合はB) B 80%以上 C 70%以上 D 60%以上	7月12月 児童アンケート	C	「自分にはよいところがある」と感じている児童の割合が、そう思う28%、だいたいそう思う50%で、合わせて78%だった。養護教諭による保健指導や人権擁護委員による読み聞かせ、スクールカウンセラー中川先生の授業を行った。また、子どもたち同士でよいところを伝え合う橋郵便の取り組みも行った。	全校いいところ見つけを継続的にやり、異学年同士で認め合う活動を行っていく。そこで他学年から褒められたことを担任が価値づけるなど、児童、教員ともに認める機会を意識的に増やしていく。また、C4thを活用し、教員同士で、見つけた児童のよいところを共有できるようにする。
V 家庭・地域との連携	【キャリア教育の推進】 優れた芸術文化や働く人の生き方にふれる特別授業を企画し、生き方にふれることで夢や目標を育て、地域を誇りに思える児童を育てる。	教務部	【満足度指標】 優れた芸術文化や働く人の生き方にふれる特別授業や各教科におけるGTとの授業や地域の方とのふれ合い、地域の方のよさを知る機会を通して児童が学びを深め夢や目標をもっている。	特別授業やGTとの学習で地域の方とのふれ合い、地域の方のよさを知る機会を通して将来の夢や目標を持てたと感じた児童の割合が A 95%以上 (あてはまるくどちらかの場合はB) B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満	7月12月 児童アンケート	B	総合的な学習での聞き取りなどから「まちの先生との学習で将来の夢や目標を持てた」と感じた児童の割合が94%だった。あてはまる64%、どちらかというとはまる30%であてはまるの方が多かった。感染症がなかなかおさまらず、外部の方に来ていただき特別授業をする機会が減っていった。	今後もコロナの感染状況を見ながら、機会を捉えて地域の方から学ぶことを続けていく。また、来年度に向けて、町の先生リストを作成したり、地域の方々をお呼びしやすくするための体制づくりを行ったりしていく。
	【社会性の育成】 社会性を身につけた児童を地域ぐるみで育成するため、あいさつを重点に、家庭・地域との連携を図り、身近な人へ進んで明るいあいさつができる児童を育てる。	生徒指導部	【満足度指標】 家庭・地域や学校で、児童は進んであいさつができていく。	進んであいさつをしていると回答した児童の割合が、 A 90%以上 (あてはまるくどちらかの場合はB) B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月12月 児童アンケート	A	肯定的評価に回答した児童の割合が90%であった。前期と比べ、あまりあてはまらないと回答した児童の割合が減り、あてはまると回答した児童の割合が増えた。 9月の学校生活目標で目指すあいさつについて話し合い意識できるようにし、各学級での取組目標を決め、取り組んだことを振り返った。その結果、あいさつをされると、返すことができる児童が増えた。	自分からあいさつをするということには課題があるので、レベルアップできるように、改善した児童主体の企画を取り入れ学校全体で取り組んでいく。